

新病院は積水ハウス(株)で施工



岩佐 直樹

羽島動物病院 院長
獣医師、獣医学博士
岐阜大学応用生物学部獣医内科学研究室所属

<院長から>

当院の新病院設立は積水ハウス（株）様へ施工依頼をしました。新病院設立に伴い2025年10月より工事着手をし、2026年5月に竣工を予定しております。なぜ積水ハウス（株）様を選んだのか？今後、羽島動物病院はどのような動物医療を通じ地域貢献をしていくのか？等を踏まえてお話ししたいと思います。

【ポイント💡】

1. なぜ積水ハウスなのか
2. 地震対策
3. 飼い主様に安心安全の医療をご提供するため
4. 災害時の動物病院の役割として

【1.なぜ積水ハウス(株)なのか】

新病院設立にあたり建築会社を選定する際に最も考慮した点は『耐震性』でした。昨今全国的に頻発している自然災害の中でも特に注視したのが地震対策です。建物は鉄骨で大地震にも耐え得る言わばシェルターとしての役割を果たす事を求め、地震や自然災害に対し強いと定評や実績がある会社、長期保証やその後のアフターメンテナンスを考慮した結果、積水ハウス（株）に発注致しました。

【2.地震対策】

阪神淡路大震災の被災エリアに建築していた積水ハウスは全壊・半壊共に0棟。東日本大震災や熊本地震、能登半島地震においても全壊・半壊0棟と言う結果に驚き、また被災地への支援活動の手厚さやアフターサービスでの安心感も充実しています。

【3. 飼い主様に安心安全な医療をご提供するため】

新病院の地震等の災害時には主に診療中の飼い主様やスタッフを守ると同時に入院中のワンちゃん、ネコちゃんを守るという責務を果たします。積水ハウスの耐震性の高い当院はシェルターとして機能します。

【4. 災害時の動物病院の役割として】

万が一飼い主様が被災された状況の際、避難所生活を余儀なくされるかと思われませんが、その際にワンちゃん・ネコちゃんを同伴出来ない可能性もあるかと思えます。その様なお困りの状況に際して受け入れの限度はございますが当院に通われているワンちゃん・ネコちゃんを一時的ではございますが避難中お預かりしたいと考えております。この思いを叶える新病院には地震や自然災害対策が必須と感じ、上記に記述の通り積水ハウスにて建築する事にしました。担当営業の早坂さんや担当設計の西山さんもこの思いを共感され、『被災時にライフラインは止まっても、医療は止められない』と言う共通認識のもと計画を進めて参りました。

【最後に】

新病院になっても今と変わらず、またはそれ以上の獣医療を通じ羽島市に地域貢献して参ります。
新病院になってもどうぞ宜しくお願い致します。



羽島動物病院 <〒501-6255 岐阜県羽島市福寿町浅平 2-17>

院長 岩佐直樹

☎058-391-0755